

## ③烏山川緑道を歩き、松陰神社・豪徳寺等を訪ねる 資料

2019.4.17 秋山

### 世田谷の歴史

世田谷の歴史は古く、この地に人々が暮らし始めたのは、今から約3万年前にさかのぼります。古代の多摩川にそった高台に古墳が造られ、その周辺からは住居址も発見されています。14世紀になると、世田谷は吉良氏の領地となり、居城も築かれました。江戸幕府が開かれた後は、世田谷は江戸市中に近い近郊農村として野菜の供給地となっています。村々のうち20ヶ村が彦根藩主井伊家の領地となり、江戸における菩提寺・豪徳寺も開かれました。

大正から昭和初期にかけて農村であった世田谷に鉄道が開通すると、沿線は次第に住宅地として開発されていきました。関東大震災が契機となって、東京の中心部から移転する人々が多くなり、一層住宅地化が進みました。

昭和7年、東京市の区域が拡張され、荏原郡世田谷町、駒沢町、松沢村、玉川村は合併して世田谷区となりました。同11年には北多摩郡千歳村、砧村が追加編入され、現在の区域となりました。戦後は軍施設の跡地が学校や病院、集合住宅へと変わり、昭和39年の東京オリンピックにさいして、道路網が整備されたことにより、世田谷は住宅地として発展しました。

### 東急世田谷線

世田谷区の東部を縦断する地域密着型の路線で、三軒茶屋から下高井戸まで約5Kmを結んでいます。東京では都電荒川線とともに、数少ない路面電車でレトロな雰囲気の魅力です。沿線には、松陰神社、豪徳寺など名所旧跡や世田谷区役所をはじめ行政施設が集まっています。東急（東京急行電鉄）の軌道線で唯一 JR 線との接続や交差がありません。

環七通りと平面交差する若林踏切では、電車が来たら環七の交通を止めるのではなく、信号が変わるまで電車の方を待たせる仕様になっています。信号待ちする電車は当路線を代表する光景です。

### 烏山川用水

江戸時代に安定的な農業用水の確保する手段として、玉川用水の水を烏山川に分流し、流入させていました。玉川用水からの分水は、昭和初めまで行なわれていました。



① 世田谷線の電車



② 烏山川緑道



③ 烏山川緑道の道標

### 烏山川緑道

世田谷をかつて流れていた川で、目黒川の支流の一つです。1970年代以降、ほぼ全面的に暗渠化され、殆ど下水道に利用されています。近年暗渠部の緑化が進められ「烏山川緑

道」と呼ばれています。延長は7Kmです。世田谷区には烏山川緑道をはじめ16本の緑道があります

### 松陰神社

現在の松陰神社一帯は、大夫山あるいは長州山と呼ばれていました。寛文12年(1672)第二代萩藩主毛利大膳太夫が在府の折、若林村の百姓の土地を購入し抱え屋敷(別邸)を建てたことに由来しています。幕末の思想家・吉田松陰が安政の大獄に連座し処刑されたのち、高杉晋作、伊藤博文らの手によって、文久3年(1863)小塚原・回向院より改葬されました。その後、明治15年(1882)松陰神社が創建されました。

**在府** 江戸時代大名やその家臣が江戸勤務をすること。江戸詰めです。



④松陰神社入口



⑤松陰神社本殿



⑥世田谷城跡(空堀)

### 城山小学校(しろやま)

烏山川緑道を歩き国土館大を過ぎると、右手に新しい近代的な建物があります。平成29年に新しく建て替えられた城山小学校です。創立は昭和29年、児童数は417名です。

### 世田谷城址

今からおよそ450年前のことです。世田谷地方は、吉良氏という武将が治めていました。吉良氏は世田谷に城を築きました。現在は世田谷城址公園になっています。城と言っても高い天守閣はなく、自然の地形を利用した大きな館のようなものでした。敵が攻めてきたときは、城を守らねばなりません。そのため、城の周りには湿地や川や森林がありました。また深い堀や石垣を造りました。城址公園には、ごくわずかですが、その跡が残っています。

世田谷城主の吉良氏は、鎌倉の北条氏と深いかかわりがありました。蒔田にも吉良氏の館があったのは、世田谷と鎌倉を結ぶために大事な役割をはたしていたためだといわれます。天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めによる北条氏滅亡とともに所領を失い廃城となりました。

世田谷の吉良氏は江戸時代になると、幕府の高家(こうけ)になり蒔田姓を名乗りました。同じく高家となった三河吉良氏は江戸時代中期の赤穂事件で吉良上野介義央が打たれ、御家断絶になりました

**常盤姫のこと** 世田谷城と周辺に、悲しい伝説が伝えられています。それは常盤姫のことです。常盤姫は世田谷の奥沢城主大平氏の娘でした。成長して世田谷城主の吉良頼康の側室となりました。

吉良頼康は常盤姫を大変可愛がりました。そのため頼康に仕えていた他の側室たちに妬まれました。事実でない話を頼康に伝え、常盤姫を城から追放してしまいました。常盤姫は悲しみのあまり自ら命を絶ちました。常盤姫を祀る駒留神社と常盤塚があります。また常在寺は常盤姫が開いた寺です。弦巻3丁目にある実相院は吉良氏が開いた寺です。このように弦

巻周辺には世田谷城と吉良氏にかかわる伝説や史蹟が多く残されています。

**小田原城の落城と吉良氏** 天正 18 年（1590）北条氏は豊臣秀吉の軍勢によって滅ぼされました。小田原城の落城とともに吉良氏も力を失い、吉良氏朝は隠居して実相院に入りました。このようにして、長い間続いた北条氏の下で世田谷地方を治めていた吉良氏は滅び、世田谷城も廃城となりました。

### 豪徳寺

中世に武蔵吉良氏の居館として天正 18 年（1590）の小田原征伐で廃城となった世田谷城の主要部分だったとされています。寛永 10 年（1633）彦根藩主井伊直孝が、井伊家の菩提寺として伽藍を創建し整備しました。豪徳寺の名前は直孝の戒名である「久昌院殿豪徳天英居士」によります。

### 招き猫伝説

井伊直弼が猫により門内に招き入れられ、雷雨を避けて和尚の法施を聞くことができたことを喜び、後に井伊家の菩提寺としたといわれています。彦根市のキャセクター「ひこなゃん」はここ豪徳寺の「たま」に因んだものです。



⑦豪徳寺



⑧まねき猫



⑨井伊直弼の墓

### 勝光院

天正元年（1573）吉良氏朝が父頼康の菩提を弔うために、小机の雲松院から曹洞宗の僧であるむ天琳達を招いて再興し、順康の法名にちなんで勝光院と呼びました。勝光院は吉良氏の菩提寺であり、吉良氏代々の墓や歴代住職の墓があります。勝光院の境内は緑豊かで古木や大木になった庭木が見られます。よく手入れされた竹林と竹垣のある風景は、世田谷百景に選定されました。

### ボロ市通り

約 700 店の露店が並び、一日におよそ 20 万人の人出で賑わう世田谷ボロ市は、12 月 15・16 日と 1 月 15・16 日の年 2 回、代官屋敷を中心としてボロ市通りで行われます。ボロ市の始まりは安土桃山時代に遡ります。当時関東を支配していた小田原北条氏は天正 6 年（1578）世田谷新宿に楽市を開きました。

**楽市** 安土・桃山時代（戦国時代後期）に織田信長と豊臣秀吉の豊臣政権や各地の大名が城下町などの支配地の市場で行われた経済政策です。楽とは規制が緩和されて自由な状態を意味します。

### 世田谷代官屋敷（国の重要文化財、都史跡）

世田谷代官屋敷は江戸時代中期以来、彦根藩世田谷領 20 カ村の代官を世襲した大場家の役宅で、大場代官屋敷といわれています。大名領の代官屋敷としては都内唯一の存在であり、



その由緒により、昭和 27 年（1952）「都史跡」に指定されました。また、現存する大場家住宅屋および表門の 2 棟が、近世中期の代表的な上層民家としてよくその旧態を保存し、貴重な建造物であるという理由で、昭和 53 年（1978）国の重要文化財に指定されました。主屋の内部玄関に式台が設けられ、それを上がるとすぐに 18 畳の板の間があって、その西側の「役所の間」「次の間」は代官の執務室として用いられた部屋です。また、西南端に位置する 7 畳半の部屋を、大場家では「切腹の間」と呼び、「事ある時はここでいつでも腹を切る覚悟で職務にあたった」と伝えられています。

**式台** 武家がのる籠を横付けして、地面を踏まずに乗り降りできるようにした玄関より一段低い板張りの踏み台のこと。



⑩勝光院吉良家の墓



⑪代官屋敷



⑫世田谷のボロ市

## 世田谷代官の仕事

代官の職務のうち最も重要な仕事は、年貢の収納に関することで、時にはその職を辞めねばならない程の大切な職務でした。代官は領内の治安についても、気を配らなければならず、村々の名主・年寄りを指揮して、犯罪の防止や取り締まりに当たったり、死人の検視・災害箇所の見分・市の見回りに出向いたりで大忙しでした。

世田谷領が井伊家の江戸屋敷賄料として与えられた関係で、年中行事や生活上必要な品々を調達納入することも、世田谷代官の職務に含まれていました。毎年井伊家に納入される品としては、正月のお飾り用の竹木、節句用の餅草・菖蒲、蚊取り用の杉葉、入浴剤として使用する桃葉があげられます。さらに普請・草刈り・米つき等に使役される人足、菩提寺・豪徳寺で行われる法要・葬儀の際の人夫の徴発をしなければなりません。

## 区立郷土資料館

世田谷区制 30 周年事業の一環として昭和 39 年（1964）に開設された都内最初の公立地域博物館です。かつては閑静な農村地帯であった世田谷は、戦後の急速な人口増加により、90 万人の区民が住む住宅都市へと変貌を遂げました。その一方で、緑や貴重な文化遺産がうしなわれつつあります。こうしたなか、世田谷区に関する歴史・民族資料などを収集し、その散逸を防ぐとともに、それらに関する日々の研究成果を展示・書籍刊行などをおこなっています。

**参考資料** 世田谷代官大場家の歴史  
世田谷代官屋敷  
歩いて出会う世田谷 24 の物語  
世田谷文化マップ  
世田谷区史

世田谷区立郷土資料館  
//  
世田谷産業振興公社  
世田谷教育委員会